

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県名【滋賀県】

学校名【 滋賀県立盲学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	幼稚部, 小学部, 中学部, 高等部
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (近畿盲学校水泳大会) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・浮く、進む、呼吸をするなど習得し、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう。 ・泳法を身に付け、効率的に泳ぐことができるようにし、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう。
5 取組内容	 ・浮具を装着しないで浮くことを目標に、スモールステップとしてロングビート2000に乗っています。しかし、水が怖いのでスイムヘルパーを付け、安心して取り組んでいます。



・大きなロングビート2000に慣れてきたので、少し小さいロングビート1000に乗れました。



・ライフジャケットTK18ARSを着用して、バタ足の練習をしています。



・ウォーターウエイトリング65を使用して、潜る練習をしています。

6 主な成果	・水泳に対して苦手意識を持っていた生徒が、ロングビートやヘルパーを利用し、浮く、進むという感覚を習得することで水泳に対して意欲的になった。 ・ウォーターウエイトリング利用することで、水の中で進む動きを習得できた。 ・ライフジャケットを利用することで、力を抜いて仰向けで浮かぶことができるようになった。当初、水を怖がっていた生徒だったが、「浮かぶことが楽しい」と言えるようになった。 ・水泳大会に向けて、ライフジャケットを利用し、バタ足の練習を繰り返し行った。水泳大会では、自己記録を出し入賞することができた。生徒は自己記録で入賞したことで大変喜び、記録を向上させることや競い合う楽しさを味わうことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・水泳の経験が浅い生徒に対して、ロングビートやヘルパーなどの浮具を利用することで安心して楽しめるようにした。 ・ただ潜るだけではなく、ウォーターウエイトリングを利用することで浅く潜る、深く潜るなどの目標設定を行った。 ・水を怖がり消極的な生徒に対して、ライフジャケットを着用させることで安心して授業内容に取り組ませた。
8 主な課題等	・数が少ないため使用するためには順番待ちとなり、全員で取り組むことができない場面があった。
9 来年度以降の実施予定	・それぞれの用具を利用して、浮く、進む、呼吸をするなど習得し水泳への興味、関心を高める。 ・用具を利用して、効果的に泳法を身に付け、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう。